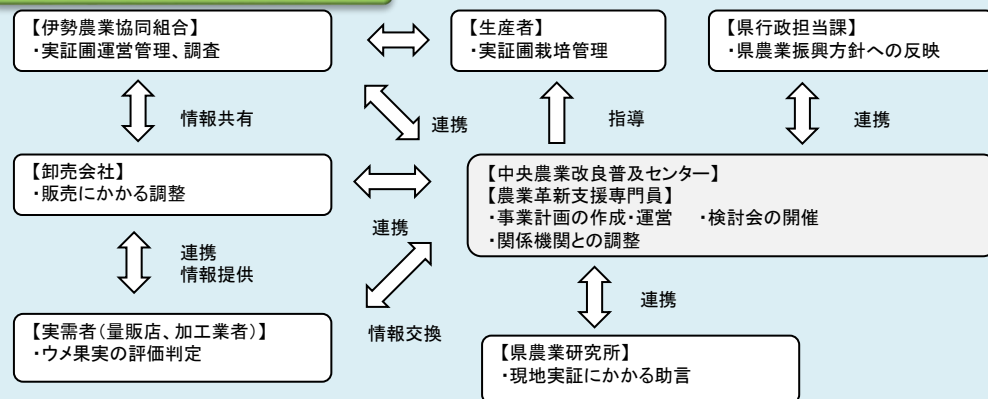


【全体概要】 三重県では、昨今の地球温暖化等の影響により、ウメの成熟が急速に進む傾向がみられる。熟度の進んだウメは傷みやすいことから、傷みにくい青梅が市場から求められており、青梅の状態で出荷することが重要となってきた。そこで、樹勢の強い樹の果実は成熟が進みにくいことから着想を得て、樹勢コントロールが容易な樹体ジョイント仕立栽培等を活用した密植垣根栽培技術の確立に取り組んだ。

新品種・新技術等の概要

神奈川県農業技術センターが開発した樹体ジョイント仕立て栽培は、樹の先端を直線上に接ぎ木し、整列した樹形にする技術で、従来の栽培法に比べ、樹勢をコントロールしやすく、作業が省力化できるとともに、密植により早期整園化が可能となる技術である。当技術は、県内ではナシで普及が進んでいるものの、ウメでの知見は少ない。

実施体制図



主な取組内容

樹体ジョイント仕立て栽培について、神奈川県農業技術センター、茨城県水戸市農業技術センターおよび現地ほ場での情報収集を行った。そして、大苗育苗圃ならびに樹体ジョイント仕立て栽培の実証圃を設置し、結果を基に樹体ジョイント仕立て栽培導入のためのマニュアルを作成した。作成したマニュアルの配布と生産者講習会を実施し、技術の普及を図った。また、県内卸売会社と連携したウメの熟度による商品性の検討した。

先進地視察



神奈川県農業技術センター



茨城県現地圃場

現地実証圃



接木の实証



大苗育苗圃



ジョイント樹形実証圃

マニュアルを用いた生産者講習会



生産者講習会

実績と今後の展開

三重県南伊勢町に設置した実証圃の管理を通じて得た知見をマニュアルとしてまとめた。マニュアルは県内7JAに配布し、技術の周知を図った。その結果、令和3年度時点で2名の農家がジョイント仕立て栽培に取り組んでいる。また、令和3年度に試験的に収穫した果実は、ジョイント仕立て栽培による樹勢コントロールでの熟期の抑制効果が確認された。作成したジョイント仕立て栽培の導入マニュアルを用いて、今後も、県内生産者への技術の普及に取り組む。